



Title	TMPG化学発光試薬を用いたDNA 関連タンパク質の新規測定法の開発研究
Author(s)	殿岡, 恵子
Citation	(2008-03-19)
Issue Date	2008-03-19
URL	http://hdl.handle.net/10069/20745
Right	

This document is downloaded at: 2020-10-27T21:23:02Z

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第177号	氏名	殿岡 恵子
学位審査委員	主査	甲斐 雅亮	
	副査	中山 守雄	
	副査	黒田 直敬	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、医薬品開発において標的分子となるDNA結合性タンパク質、及び、悪性腫瘍や老化などに関与するテロメラーゼ活性の迅速、簡便、かつ高感度な新規化学発光測定法の開発を目指したもので、目的は十分妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 TMPG 化学発光試薬を用いる検出反応を、より簡便、迅速かつ高感度化することによって、遠心限外ろ過膜を活用するDNA結合性タンパク質及びテロメラーゼ活性を定量的に検出する新しい手法の開発を行っている。さらに、細胞核内の NF-κB タンパク質と細胞内テロメラーゼ酵素活性を測定し、開発した手法の実用性を実証したものであり、研究手法は十分妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記開発した化学発光測定法は、検出感度、定量性において、従来の蛍光法や電気泳動法よりも優れたものであり、特に、標識DNAや特異的抗体などを使用しない点において、より低コストで測定が行える。さらに生体の細胞試料を測定することで、実試料への適用が可能であることも示している。このことから、本研究は、今後の臨床検査学、生化学等の研究への貢献が大いに期待される。</p> <p>以上のように本論文は薬学的な多くの研究分野に貢献できることが大であり、審査委員は全員一致で博士（薬学）の学位に値するものと判断した。</p>			